

The Wonderful Behavior of CJ-Students

やるネ！ 筑女生

勉強をはじめ、さまざまなことに積極的に取り組む筑女生の活躍を紹介するこのコーナー。今回は1年半におよぶカナダ留学で成長を遂げた大学生と、様々なボランティア活動が評価され「国際ソロプチミストヴァイオレット・リチャードソン賞」を受賞した高校生が登場していただきました。



ホストファミリーと一緒に、カナダならではのアクティビティも満喫。

01

【大学】

私を変えてくれた、カナダでの 1年半にわたる語学留学

家富沙織さん（大学／文学部 英語メディア学科 平成25年9月卒業）

留学前に決めた3つの 目標を達成するため

留 学

高校生のときでした。その頃の私は自分に自信がなく、いつも人の目を気にして、人に嫌われないように毎日を使いながら学校生活を送っていました。そんな自分が大嫌いで、どうにかして変えたいと思っていました。そこで、今までと全く違った環境に自分を置いたらどうなるのか試したくなりしました。それが留学を考えた最初のきっかけです。

その思いを胸に、英語メディア学科に入学しました。そして、大学の国際交流センターに足を運んだときに、1年もしくは半年、カナダやオーストラリアに語学留学ができ、しかも返済不要の奨学金があるという素晴らしい留学制度を知りました。迷わず、留学試験を受ける決意をし、念願の「カナダで

1年間の語学留学」のチケットを手に入れることができました。

初めての海外、そして長期留学。何もかもが新鮮で、不安よりもワクワクしていました。が、やはり初めは言葉や文化の壁にぶつかりました。高校時代以上に、何も知らない自分が、何もできない自分がさしました。ですが、留学をする前に決めていた自分の目標「自分の性格を必ず変える」「カナダの文化そして他国の文化を知り、広く物事を考えられる柔軟性を身に付ける」「留学が終わつてもずっと繋がっていられる信頼関係の友達を作る」これを達成するまでは帰らないと決めていました。1年間の留学のほとんどが4カ月延長し、約1年半カナダに滞在しました。

帰国してからは、英語だけでなく、他の授業にも意欲を持って参加するようになり、日本語ワープロ検定の初

段にも合格しました。人との付き合い方も変わり、自分の性格を素直に人前で出せるようになりました。特に、ボランティアやオープンキャンパスのスタッフとしての活動は、新たな視野を広げるきっかけとなりました。

この先も出会いと繋がりを大切にしていきたい

私 も今春から社会人になります。何をするかというと、実は介護の仕事に就きます。留学や就職活動を通して、「人と関わり、人の役に立つ仕事をしたい」ということに気づいたからです。今まで学び、身に付けたことは決して無駄にはならず、これから福祉の現場でその力を発揮できたらと思っています。



日本語ワープロ検定の合格証書授与式。

02

【高等学校】

ボランティア活動が評価され、国際ソロプチミスト ヴァイオレット・リチャードソン賞を受賞

伊藤 友紀さん(高校3年)

大切なのは「笑顔と感謝の
気持ちを忘れないこと」

小 学校1年生の時、ボラ
ンティア活動をしてい
た母に連れられて国立病院

の病棟を訪れました。そこで
言語障がいを持つ女性と出
会い、生きる強さや優しさを
感じさせる彼女の笑顔につ
も元気をもらっていました。
彼女は、うまく話せなくて

も、笑顔の素晴らしさを教
えてくれました。これがきつ
かけとなり、私は様々なボラ
ンティア活動に取り組むよ
うになりました。

中学生になり、毎年秋季に
大牟田市で行われている「三
池光竹」というイベントで町
おこしに奮闘する地域の方
たちの姿に刺激を受け、私
も運営メンバーに入っていた
きました。この活動を支援
するために、毎年、国際学
生ボランティアグループ「NICE」のメンバーと協力して、
竹林整備や森林保全活動に
も取り組みました。この時に
採取した竹は、イベントで「竹
灯籠」へと姿を変え、たくさ
んのお客さんに楽しんでた
だいた後、竹チップや竹炭に
して活用しています。

高校生になっても、友達と
グループを組んで屋台を出
店し、継続して参加していま
す。この収益は環境活動のため
に使われています。ここで

は高校生であるわたしの意
見を運営メンバーの一人の
意見として尊重し、責任ある
仕事任せられます。また、
一昨年は、高校の東北ボラン
ティア研修にも参加し、私に
できることは何か?今、何を
しなければいけないのか?を
深く考える機会になりました。

私は活動を通して、いつも
「人と人との繋がりの大切
さ」を身にしみて感じます。
人と人が繋がらなければイ
ベントも活動も成功するこ
とはできません。その時にい
つも大切にしていることは、
「笑顔と感謝の気持ちを忘
れないこと」です。

もっともっと
地域を元気づけたい

昨 年の4月に、高校の先
生の推薦で、「国際ソロ
プチミストヴァイオレット・
リチャードソン賞」を受賞し

ました。ボランティア活動を
通して、地域や世界をよりよ
い場所にしようと努力して
いる14歳から17歳の女性を
対象に選ばれる賞です。この
賞を受賞することができた
のは、私にたくさんの方のチャン
スを与えてくれた両親や、いつ
も支えてくれていたたくさん
の人の力のおかげです。自
分の知らない世界に飛び込
む時は、見るもの、出会う人、
すべてが刺激的で、学
べることをすべて吸収
する気持ちでいつも
挑んでいます。今は、
地域で子どもたちが
安心して暮らせる医
療環境の整備に貢献
するため、小児科医
を目指し、受験勉強
中です。大学に入っ
てから、さらにたくさん
の活動を通して成長
し、もっともっと地域
を元気にしていきたい
です。



世界各国から集まった「NICE」のメンバー(左の着物姿が伊藤さん)。



三池光竹の主催者の方たちと竹林の整備。

